

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<p>地域と連携したキャリア教育の推進 小中高の一貫した教育内容の整備</p>	<p>① 本校で取り組むキャリア教育について教員の共通理解を進める。 ② 児童生徒の実態把握を全教員が共通した視点で行えるよう、アセスメントシートを完成させる。 ③ 地域の福祉事業所と連携した研修会を通して、児童生徒の卒業後を見通した日々の教育活動を推進する。 ④ 本校中学部卒業生の分校高等部へのスムーズな移行を支援する。 ⑤ 分校とともに、教育課程別に、履修する児童・生徒の担任が学部を超えて集まり、情報を共有し、一貫した教育内容教育支援について研修する機会を設け、連携を深める。 ⑥ 在籍する児童生徒の多様な障がいの状態に応じた教育が行われるように、教育課程検討委員会を新設し、基盤となる教育課程の整備・改定を連携して行う。 ⑦ 個別の教育支援計画の書式を検討し、保護者との共有を図る。</p>	<p>① 研修会を行い、キャリア教育プログラムをまとめた。個別の指導計画等と項目を連動させることができた。 ② アセスメントシートの新様式を完成させた。 ③ 夏季休業中に2日間、4事業所を訪問。2学期の事業所との懇談会を経て、計画相談についての研修会を実施した。 ④ 3月と7月の2回実施。卒業生の状況を知る機会や、分校担任へ在学時の情報を伝えることができた。 ⑤ 年間2回の研修会を開催し、それぞれの課程で児童生徒の状況は異なるが、各学部で大切にしたいこと、引き継ぎたいことなどキャリアプログラムも念頭に置きながら確認した。 ⑥ 平成27年度教育課程を整備。中学部のA課程については、中学部で評価やシラバスを作成した。 ⑦ 保護者及び関係機関に開示して情報の共有を図ることを目的に、個別の教育支援計画の改訂に取り組んだ。関係分掌との検討会をもちながら新しい様式を作成した。</p>	<p>① キャリア教育プログラムの保護者への発信を来年度行う。 ② 新アセスメントシートは、新様式で来年度より運用。 ③ 福祉事業所への見学・懇談会は、有意義であり、満足度も高いことから、今後も引き続き実施していく。 ④ 引き続き実施。 ⑤ 来年度も研修テーマを本校分校と合同のものにして、さらなる連携を図りながら進めていく。合同の研修部会も今年度同様、年間数回開催予定。 ⑥ 中学部A課程の評価・評定基準の整備を行う。教育課程検討委員会は必要に応じて開催。 ⑦ 来年度より、個別の教育支援計画を新様式で運用。</p>
<p>教職員の資質・組織力の向上</p>	<p>① 学校全体の諸問題に関わる課題を明らかにし、学校の組織力を高める。 ② 職員の人権感覚を高める研修を行う。 ③ 病棟児童生徒の学習活動の充実をめざし、病棟関係者との連携を深める。 ④ 児童・生徒の緊急時の対応について、情報の共有と再発防止を図る。</p>	<p>① 毎月2回運営委員会を実施。毎月2回目の会議では、情報や課題の共有を図り、問題解決に向けての方向性や行事の精選・取り組み方の工夫、諸課題へのアプローチなど学校全体としてとらえた話し合いを行った。 ② 全体研修では、校内人権デーにグループ別に課題解決型ワークショップと「体罰を防止するための子どもの理解と教師のはたらきかけについて」として講師を招いての学習会を実施した。 ③ 杉の子連絡会、ひまわり連絡会を毎月1回、学期末には生徒指導懇談会を実施し、連絡調整を図ることができた。 ④ ・いじめ防止委員会の定例会を予定通り開催。</p>	<p>① 学部長会を週1回程度持ったり、運営委員会及び職員会議の提案事項を事前に回覧したりすることにより、情報や課題の共有が進んだ。タイミングを逃さない詳細な情報共有により、諸課題に対して危機意識をもつことができ、改善に向けての動きがスムーズになるという意見も多いので、継続していきたい。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応の流れを示したカードを改定し、校内11か所の外線電話の近くに置くとともにくひやはっと>情報の記入の呼びかけをし、学期ごとの状況と改善策の報告を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ② 実施後の教員の満足度も高く継続実施の方向で進める。 ③ 継続実施。 ④ 継続実施。
センター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 教職員の研修ニーズを把握し、全体研修会・学部研修会を行い、教育支援の充実に図る。 ② 教育相談、就学相談などの地域支援事業を随時行う。 ③ 分校高等部へのスムーズな移行を支援。 ④ 精選した交流活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ・本校教職員の専門性の向上のため外部講師を招いての夏季研修会を4回開催。内2回は公開研修会とし、地域の学校や関連機関の関係者の参加も募った。・課程別の研修会を2回、学部研修会を12回開催。 ② 教育相談、就学相談（総計1038件（内電話相談630件））などの地域支援事業を実施し、全ての研修会への参加者の満足度95%以上。 ③ 分校高等部へのスムーズな移行を支援するため、卒業生連絡会、分校見学会（中2）、分校体験（中3）を実施。 ④ 交流校への職員研修講師派遣や資料作成を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① ② ③ ④継続して実施予定。
防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校安全計画の作成と実施。 ② 防災委員会の設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ②・本校分校合同防災委員会を10回実施。 ・本校、分校とマニュアル自体は異なるものの、杉の子として統一した防災マニュアルを作成。 ・災害時のスクールバス引き渡し訓練を本校分校合同で実施。 ・職員対象の防災研修会、消火器の使用訓練、災害時使用の発電機灯光器作動訓練 各2回実施。 ・避難訓練を3回実施。（地震時、火災時） ・地震時の保護者への引き渡し訓練（学校で）実施。 ・防災教育として地震についての学習会と起震車体験を実施。 <u>安全管理</u>・・定期的な施設・設備の点検（消防設備、エレベーター、電気関係、水質検査など）や校内安全点検を計画的に実施し、随時危険防止の改善が行われている。 <u>学校安全に関する組織活動</u>・・学校安全計画に基づき、各委員会で定期的に会議を持ち、児童生徒の健康に関することや事故防止の取り組みを進めている。 ・重点的な取り組みであることへの保護者認識や満足度は大きく上がっている。（66%→85%→90%） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校安全計画の有効活用に向けて継続して取り組む。 ① 『防災マニュアル』『スクールバス引き渡し訓練』を重点項目に挙げて、さらなる充実にめざし、引き続き本校分校合同防災委員会で取り組みを進める。
効率化	<ul style="list-style-type: none"> ① 行事の精選と分掌間の連携の強化による学校運営の効率化向上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールボランティア講座を廃止し、希望者には随時ボランティア講座を行う形に変更。 ・1年間をかけて高等部の行事の基本方針の見直しを行った。 ・事前に資料配布するなどして、職員会議、運営委員会の平均の会議時間は、平均1時間。 ・◎運営を有効かつ効率的に活用できた（経営品質向上委員会・いじめ防止委員会を組み込む。） ・3学期より定時退校日を設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選に加え、配布文書、提出文書等の見直しには継続して取り組む。 ・勤務時間の縮減を行動計画に掲げ、目標達成に向けて更に努力する。定時退校日を月間行事予定に組み入れる。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none">・個別の教育支援計画を有効に活用し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズや障がい特性に応じた教育活動を行っており、保護者の満足度が高い。・年度の間および年度末に行動計画の進捗状況や改善すべき点を明らかにし、改善につなげるしくみが確立している。・教育相談・就学相談等の地域支援を始めとする地域のセンター的機能が充実している。・やりがいを感じ、管理職・同僚と相談しながら仕事を進めていける体制に満足している教職員が多い。・保護者や地域への情報発信が定着して、学校への理解が進んできた。
弱み	<ul style="list-style-type: none">・教室等に全く余裕がなく、調理実習や作業学習や体育の授業で大きな制限がある。・4つの教育課程があり、通学生・入院生の食事の時間が異なる等の物理的問題もあり、課程間での情報共有や連携に知恵や工夫、大きな労力を必要とする。・本校分校間の情報共有・連携を更に進めて行く必要がある。(防災教育・防災対策、本校から分校への進学)

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数> 3回	
実施内容	<ul style="list-style-type: none">第1回 (H. 26, 6, 3) : 平成26年度学校経営の改革方針についての説明第2回 (H. 26, 11, 7) : 学校見学(本校文化祭の見学含む)、平成26年度行動計画の中間評価について第3回 (H. 27, 2, 12) : 学校評価報告書に基づいた協議

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・障がいのある子どもたちが、豊かな人生をおくるためのキャリア教育については、数字や形に表れにくいことであるが、今後とも教職員が一丸となって目的に向かって取り組みを続けていってもらいたい。・特別支援教育における地域のセンター的機能の一つとして、地域の小中学校で学ぶ障がいのある子どもたちの将来の進路についての情報不足とそこからくる不安等への対応と支援を、特別支援学校のコーディネーターを中心に行っていただけるとありがたい。・スクールバスの引き渡し訓練などは、課題やリスクも大きいですが、子どもたちの安全のために、取り組みを続けていくことが大切である。・高等部卒業後の進路先について、さらに地域の理解を得て拡大していくとともに、教職員もマニュアル的に指導していくのではなく更に研修を深め、子どもたちの特性を生かせるような職場の開拓と進路指導に努力してほしい。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none">・キャリア教育を推進し、2年間かけて整理・改善してきた、教育課程・キャリア教育プログラム・アセスメントシート・個別の教育支援計画を運用、有効活用し、検証とさらなる改善を進める。・防災教育・防災対策については、次年度も本校分校合同防災委員会を中心に取り組みを継続していく。・地域の特別支援教育のセンター校としての機能の更なる充実と、関係機関との連携を図っていく。